

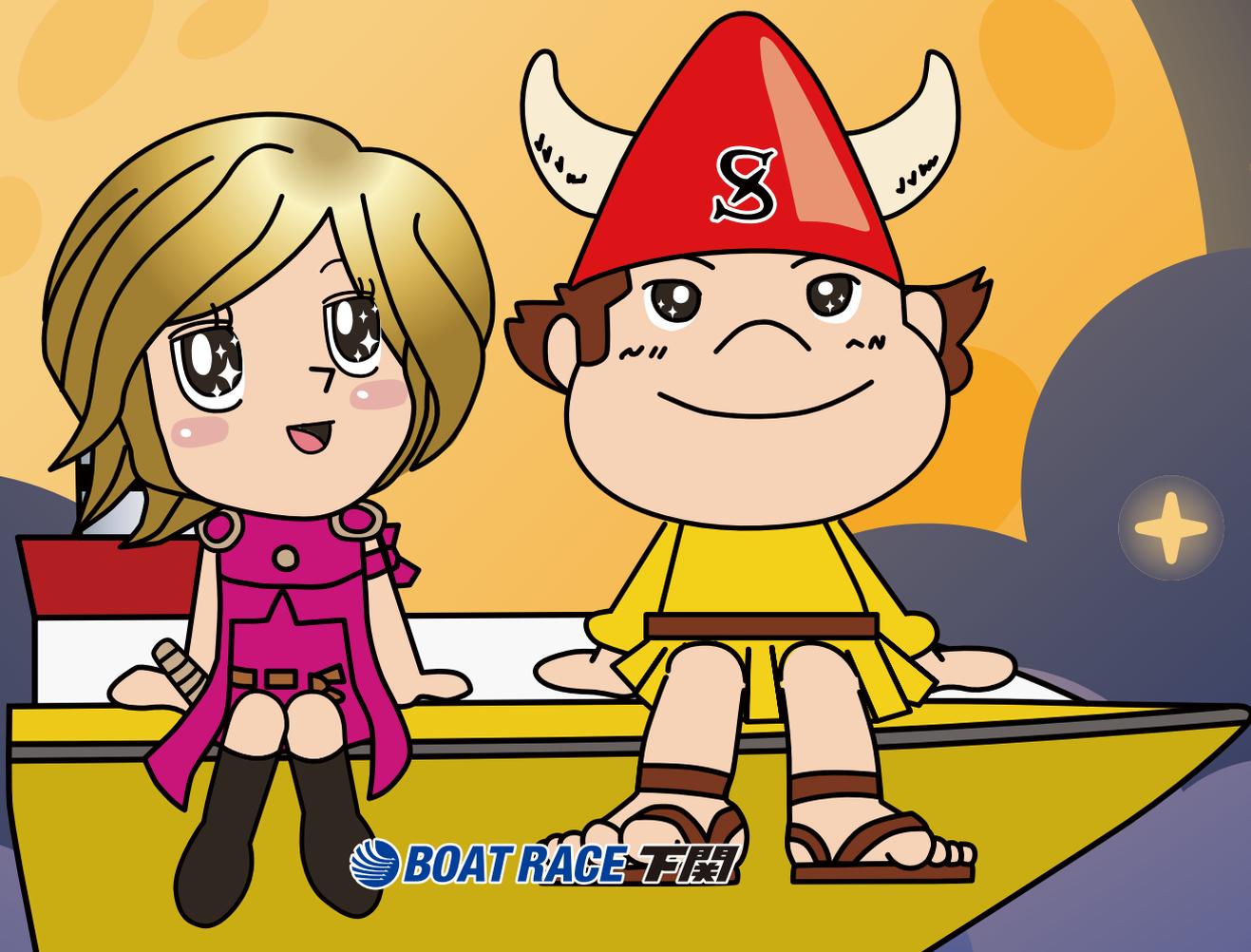
海響 ドリーム ナイン

2024

攻徹
略底

ボートレースの奥深さが詰まったザ・スタンダード水面下関

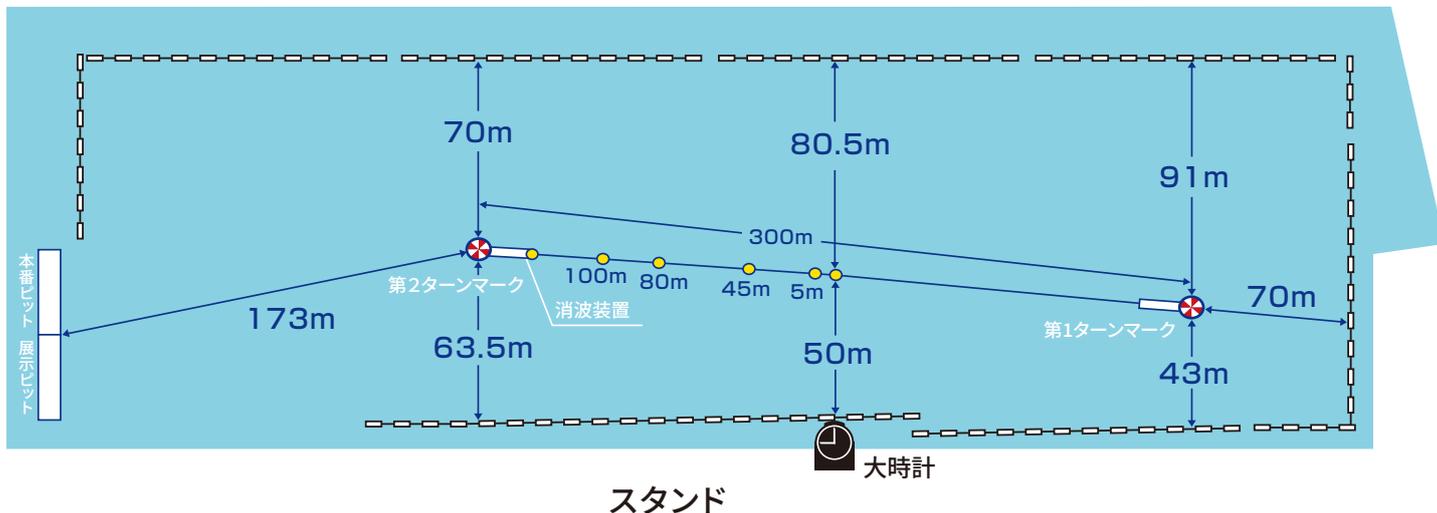
- Point1 全国屈指のイン水面。準優・優勝戦は1号艇1着率が7割超!
- Point2 2・3コースの1着は低め。意外に多い5コースまくり要注意
- Point3 穴党注目の万舟出目掲載! 最強出目は6-1-5!?



水面図



大型映像装置

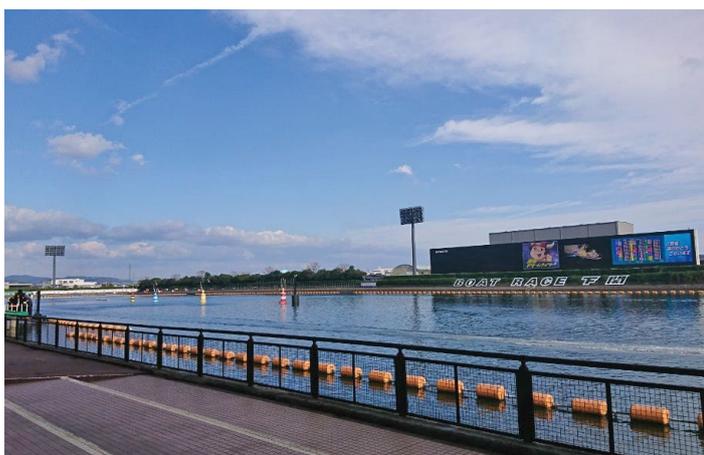


下関攻略POINT



「ザ・スタンダード水面」。それが下関。スタンドから1マークまでの幅43mは全国平均の43.4mとほぼ一緒。1マークからバックストレッチ側の91mは全国平均よりもやや広く、思い切ってターンできる。一方、特徴的なのは**ピットから2マークまでが長い**

こと。その距離173mは全国2番目で、ピット離れの優劣がコース選択に影響することもある。ボートレースの魅力を余すことなく発揮できる水面、それが下関だ。



干満差のない競走水面

逃げ中心ながら、差しもまくりも決まるのがボートレース下関。

2017年4月、オールナイター開催に合わせLED照明を整えたが、この際に堤防を高くした。この改修によって、満潮時でも周防灘から海水が入ることがほぼなくなり、「プール型海水面」となった。

つまり、安定性の高いレースコースとなっている。



スタンド側からの風が基本

風はスタンド側から吹くことが多く比較的穏やか。思い切ったレースができる条件が整っている。ボートレース本来のスタンダードな予想が成り立つのが

下関である。ただ、**日没前後を境に風向きが変わる**ことがあるので要注意。スタート展示をしっかりと確認しておきたい。

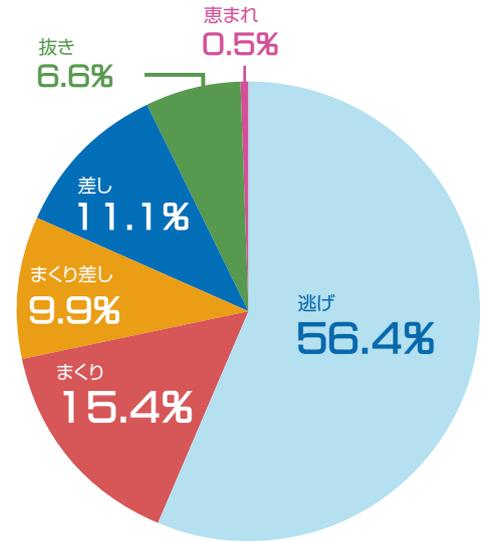
02 コース別入着率&決まり手の割合

※データの集計に関しては小数点第一位までを表示しています。

区分	1着	2着	3着	2連対率	3連対率
1コース	59.2 (55.0)	17.1 (17.5)	8.3 (8.7)	76.4 (72.5)	84.7 (81.2)
2コース	11.0 (13.9)	26.0 (25.2)	19.3 (18.6)	37.1 (39.1)	56.4 (57.8)
3コース	10.5 (12.6)	23.4 (21.5)	21.5 (20.0)	33.9 (34.2)	55.5 (54.2)
4コース	10.4 (10.7)	16.2 (17.4)	20.7 (20.6)	26.7 (28.2)	47.5 (48.9)
5コース	6.2 (6.0)	11.7 (12.4)	16.7 (18.3)	17.9 (18.4)	34.6 (36.8)
6コース	2.6 (1.8)	5.7 (6.1)	13.7 (14.0)	8.3 (7.9)	22.1 (22.0)

※集計期間：2023年1月～12月 括弧内は全国平均 単位は%

決まり手の割合



※集計期間：2023年1月～12月

1コース 全国トップクラスのイン水面

コース別入着率の特徴としては、内から順当に強い点が挙げられる。インコース1着率は59.2%で全国3位タイ。順当に逃げ切る展開が多い。

2コース 2コースの道中逆転がある

全国的に難しいとされる2コースは、1着率・3連対率ともに全国平均を少し下回り、3連対率は3コースと同程度。また、抜きの発生割合が全国平均と比べて高いのが特徴。

3コース 3コースは自在戦

現代ポートレースにおいて攻め手になることが多い3コースだが、1着率は全国平均より低い。逆に、2・3着が多くなるので3連対率は高い。決まり手の傾向はまくり・まくり差しが同じ程度。

4コース 4コースはまくり

4コースの1着率は全国平均とほぼ同じで、3連対率は全国平均を少し下回る。決まり手の割合は、全国平均と比べてまくりが多い。

5コース 意外に多い5コースまくり

まくり差しのイメージのあるコースだが、下関は例外。全国平均と比べて、まくりの発生割合は15ポイント近く上回っており、**まくりとまくり差しの割合に大きな差がない**のが特徴だ。

6コース 割と戦える6コース

インが強い場合ほど6コースの3連対率は下がりがちだが、下関は全国平均とほぼ同じ数値。そして1着率は上回っている。まくりでの1着が全国平均と比べ多い。

POINTまとめ!!

- ①全国3位のイン水面
- ②2・3コースは1着よりも2・3着傾向
- ③5コースのまくりが多いので注意

2023年のイン1着率トップ **3**

1位 徳山 64.5%

2位 大村 60.8%

3位 下関 59.2%

3位 芦屋 59.2%



イン水面の中では

2・3コースの3連対率に特徴

インが強い水面における3連対率を比較すると、下関は2コースと3コースの3連対率が高めとなっているのが特徴。静水面であるため、2コースの鋭角差しや3コースの先攻めが繰り出しやすい傾向が反映されているので留意したい。

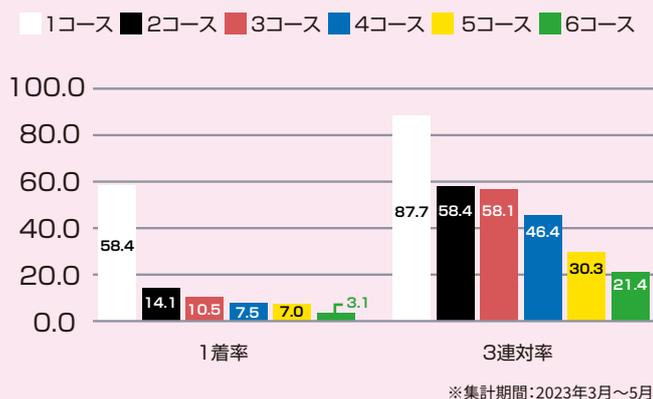


季節の傾向を知ることによって勝率は高まる

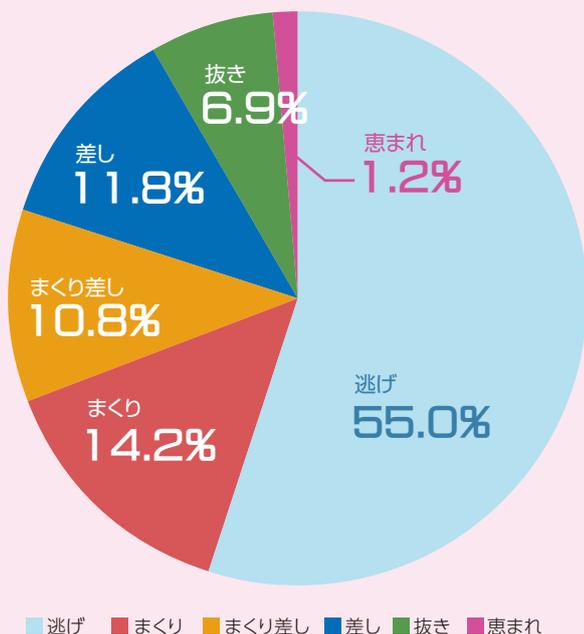
自然の影響を受けるボートレースは、だからこそ面白いと言われている。展示と本番レースの間の変化は言うに及ばず。季節要因も考慮して舟券作戦を構築したいものだ。

春は内寄り

春(3月～5月)は、これまでイン逃げ率が上昇したが、昨年1年間で激変。2コース1着率が急激にアップしている。夏に比べ6ポイント近く高いのだ。**緩やかな追い風基調になったらますます差しやすくなるので要チェックだ。**

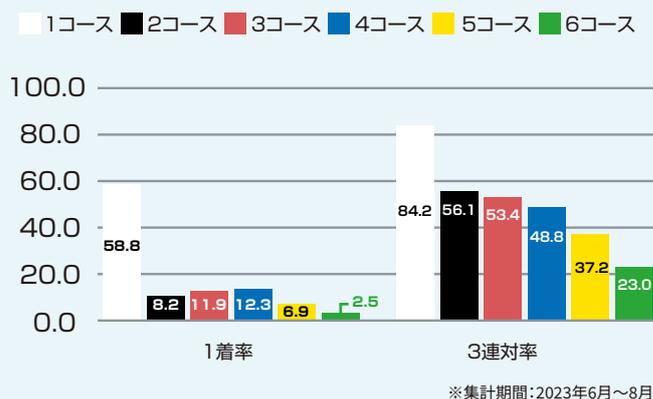


決まり手の割合

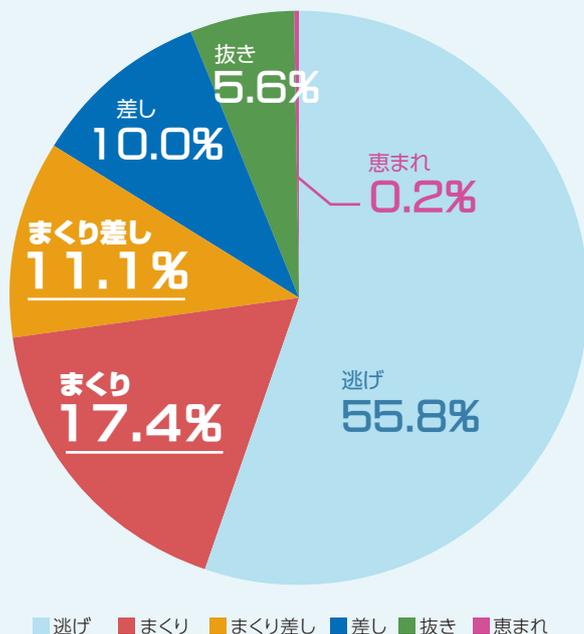


夏はセンター

夏(6月～8月)は3コースと4コースに注目。他の季節に比べ1着率がかなり高い。気温が上がるにつれてモーター出力が低下。加速が鈍くなるので、助走距離を取ることでできるセンターが有利なのだ。**展開次第で高配当も期待されるので留意したい。**



決まり手の割合



季節別コース別決まり手

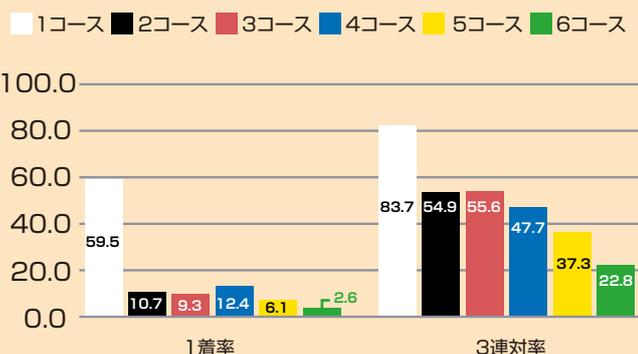
暑い時はまくり、寒くなれば差し

気温が高い夏から初秋にかけ、下関はセンターまくりが利く傾向となる。冬に比べモーター出力が低下する分、プロペラの回転数を保ちながら旋回するレーサーが有利なのだ。イン選手がレバーを放った瞬間、カウンターパンチを繰り出されるとたまったものではない。一方、気温が低下する冬季は、モーターの噴き上がりが早いため、インコースが有利になる。2コースも鋭く差し抜けやすくなるため連対率が上昇することになる。

いずれも極端に大きな変化ではないが、レース予想をするうえでディテールは重要であり、参考としたい。なぜなら勝負は紙一重。少しの差、微差が勝敗を分けることになる。しっかり研究しておきたい。

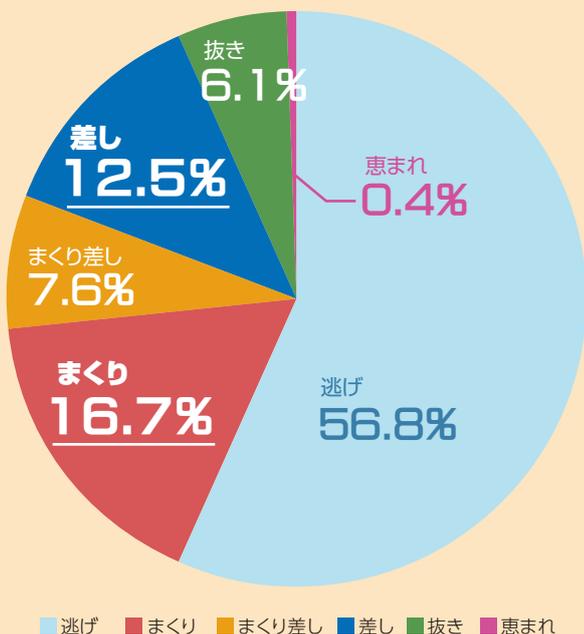
秋はインセカド

秋(9月～11月)は4コースの1着率が高い。加えてインも堅調であり、ボートレースの展開の基本形のひとつである「インとカド」が再現されやすい傾向がある。特にゆるやかな向い風が吹くと、4コースはボートを鋭く向けやすくなるため好条件となる。



※集計期間：2023年9月～11月

決まり手の割合

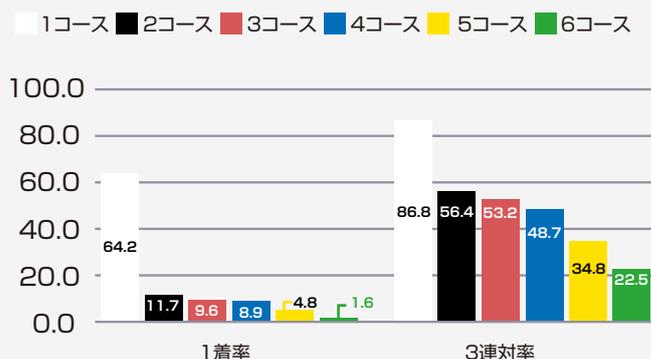


※集計期間：2023年9月～11月

冬はイン逃げ

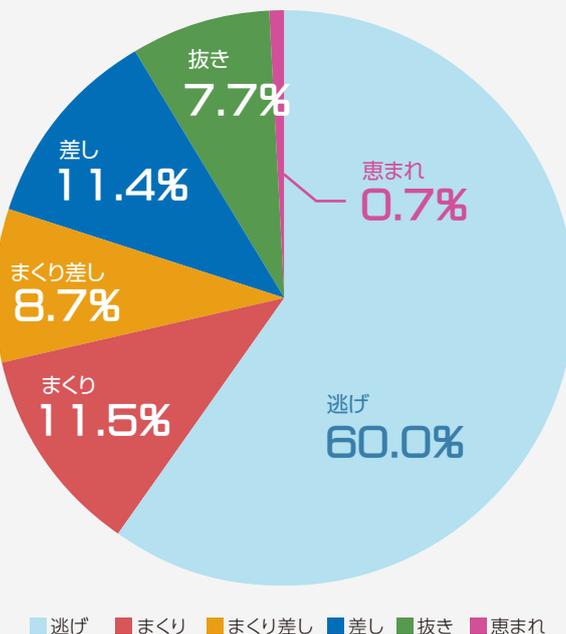
冬(12月～2月)になって気温が下がると、インコースが有利になる。モーターが冷えて出力が上がり、加速性能が良くなるからだ。

風は強めの向い風が吹きやすいが、3メートルまでなら大きな影響はない。向い風4メートル以上だと、インコースが敗れるシーンも増える。



※集計期間：2022年12月～2023年2月

決まり手の割合



※集計期間：2022年12月～2023年2月



5R シーモ戦 ～基本的に1号艇がA級だが波乱も～

攻略ポイント

①1-2-3と1-3-2は出にくい

- ・1・2号艇がA級、1・3号艇がA級のパターンが多いが、1~3号艇が全員A級のパターンが少ないのが原因。
- ・しかし、1号艇1着率は56%しかなく敗れることも多い。

②万舟出目は6-135-135

- ・5度出現し、12万舟を含む万舟4発。回収率は265.3%

出目	回数	割合(%)	平均値(円)	中央値(円)	回収率(%)
1-3-4	9	5.7	1,421	1,500	81.5
1-4-2	8	5.1	1,482	1,180	75.5
1-3-6	7	4.5	1,718	950	76.6
1-2-4	6	3.8	1,345	1,085	51.4
1-2-6	6	3.8	2,573	1,905	98.3
1-4-3	6	3.8	4,055	965	155.0
1-2-5	5	3.2	2,186	740	69.6
1-3-5	5	3.2	1,908	1,510	60.8
1-5-2	5	3.2	3,630	2,360	115.6
2-1-3	5	3.2	2,704	1,920	86.1
1-2-3	4	2.5	1,040	1,000	26.5
1-3-2	4	2.5	1,165	1,120	29.7

※集計期間：2023年1月～12月

7R ぶく～る戦・ぶく～る特賞 ～1-2-3は素直に買うのが得策～

攻略ポイント

①1-2-3にしては配当が高め!!

- ・出現した12回のうち、3桁配当はわずか2回。
- ・ほとんど1,000円台の配当なのでお買い得!

②1-4-3もオススメ

- ・3桁配当もあるが、2,000円以上も多い

③万舟出目なら3-245-245

- ・5万舟含む6度の万舟が出現し、回収率は165.6%

出目	回数	割合(%)	平均値(円)	中央値(円)	回収率(%)
1-2-3	12	7.0	2,287	1,400	159.6
1-4-3	11	6.4	1,832	1,920	117.2
1-3-5	10	5.8	2,728	1,430	158.6
1-2-4	8	4.7	887	785	41.3
1-3-2	7	4.1	1,190	770	48.4
1-4-5	7	4.1	1,554	960	63.2
5-1-4	7	4.1	3,210	2,860	130.6
1-2-6	5	2.9	980	810	28.5
1-4-2	5	2.9	1,298	1,030	37.7
4-1-6	5	2.9	4,248	1,820	123.5
1-2-5	4	2.3	935	925	21.7
1-3-6	4	2.3	1,910	1,200	44.4

※集計期間：2023年1月～12月

8R 進入固定戦 ～鍵を握るは4カドの攻め～

攻略ポイント

①1-234-234が全体の半分

- ・1・4号艇にA級のパターンが約8割を占める。
- ・絞るなら1-3-24がオススメで、1-24-3も拾えると安定して戦える。

②狙い目は4-5-12と4-1=2

- ・4カドから攻める展開なら持っておきたい。
- ・4-6-1と4-2-6も回収率100%を超える。

レースを選んで狙い目を絞るのが大事っ!!



▼1ア3マ出現率上位6点 ※集計期間：2023年1月～12月

出目	回数	割合(%)	平均値(円)	中央値(円)	回収率(%)
1-3-4	17	10.0	954	830	95.4
1-4-2	17	10.0	823	720	82.3
1-4-3	16	9.4	840	805	79.1
1-3-2	13	7.6	1,290	1,160	98.6
1-2-4	12	7.1	665	545	46.9
1-2-3	10	5.9	1,151	1,035	67.7

▼4ア3マ出現率上位4点 ※集計期間：2023年1月～12月

出目	回数	割合(%)	平均値(円)	中央値(円)	回収率(%)
4-5-1	4	2.4	3,825	3,610	90.0
4-2-1	3	1.8	11,540	8,470	203.6
4-5-2	3	1.8	7,536	4,580	133.0
4-1-2	3	1.8	5,303	3,360	93.6

準優勝戦 ～1-2-3より1-3-2～

予選成績上位者から順に内枠に配置されるので、必然的に内枠勢が幅を利かせるレース結果になりやすい。2023年の準優勝戦は計103レース、そのうち1アタマは78回。1着率は驚異の75.7%である。

そんな準優勝戦の王道目は当然1-2-3...ではなく、1-3-2 45だ。準優勝戦は多くの場合、2着条件。**枠なりの場合、3号艇はいかに2号艇を潰して2着を確保できるか**というレースになる。よって、1-2-3よりも1-3-245が来やすいと考えられる。

他に持っておきたい目は気配次第での1-3-6、3号艇をブロックしての1-2-4、1-3-4がヨレての1-4-3といったあたりだ。

万舟出目は123-6-全の12点。2023年の準優103レースで、10万舟を含む万舟8発。払戻金の合計は341,310円で、回収率276%になる計算だ。

攻略ポイント

- ❶ 1号艇の1着率は驚異の75%超
- ❷ 王道目は1-3-245
- ❸ 123-6-全は回収率276%の超万舟出目!

出目	出現率 (%)	回数	平均値 (円)	中央値 (円)	回収率 (%)
1-3-2	13.6	14	1,015	745	137.9
1-2-4	11.7	12	752	730	87.6
1-2-3	9.7	10	605	570	58.7
1-3-4	6.8	7	1,155	1,170	78.5
1-3-5	5.8	6	1,991	1,620	116.1
1-5-2	4.9	5	2,004	2,180	97.2
1-4-3	3.9	4	1,897	1,910	73.6
1-2-6	2.9	3	1,676	1,430	48.8
1-4-2	2.9	3	1,543	1,190	44.9
1-4-5	2.9	3	4,366	4,070	127.1
1-5-3	2.9	3	1,703	1,450	49.6
1-6-2	2.9	3	10,163	11,840	295.7

※集計期間：2023年1月～12月

優勝戦 ～1号艇の1着率は71.4%！～

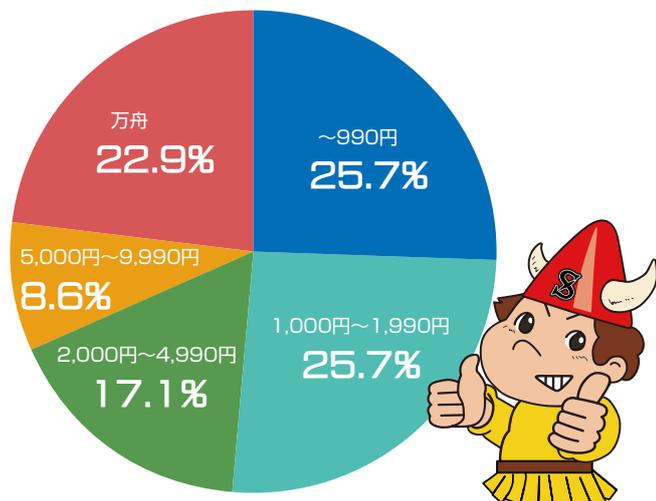
優勝戦は計35レース。回収率を見るにはサンプル数が少ないので配当金の割合を見る。3桁、1,000円台、万舟、それ以外で4分割されており、**8回出現した万舟はどれも1号艇が敗れてのものだ。**

優勝戦の1号艇1着率は71.4%で、準優同様にやはり本命決着が多い。一番出やすい目は1-2-3で、全体の2割を占める。3桁配当

は4回だけで、1,000円台が3回ある。安いときは安いのが、毎回安い訳でもない。

複数回出現した出目はやはりすべて1アタマ。それ以外のレースの決まり手は、まくり6本、まくり差し・差しが各2本。枠番別では2号艇が4度、3～5号艇が2度の優勝を果たした。

▼ 優勝戦の配当分布



※集計期間：2023年1月～12月

▼ 優勝戦で複数回出現した出目の一覧

出目	出現率 (%)	回数	最安値 (円)	中央値 (円)	最高値 (円)
1-2-3	20.0	7	430	700	1,770
1-3-4	8.6	3	960	1,230	1,370
1-4-6	8.6	3	1,180	5,770	5,980
1-2-6	5.7	2	2,900		3,790
1-4-2	5.7	2	690		700
1-4-3	5.7	2	980		1,710

※集計期間：2023年1月～12月



スタート力と展示気配が展開のカギ

ポートレース予想のポイントはいくつもある。そのひとつがスタートだ。レースの主導権を握ることができるか否かはスタートにかかっているといっても過言ではないだろう。その要素

である「平均スタートタイミング」と「展示の気配」から展開を読み解くことができれば予想は大きく前進する。

イン以外が勝つレースのヒント

- ① スタートタイミングの差が.03以上でチャンスあり、.08以上なら大チャンス!
- ② メニュー⇒レース情報⇒コース別選手成績でコース別平均スタートタイミングを確認!
- ③ 節間のスタートタイミングがばらついている選手は波乱の火種
- ④ スタート勘、スリット後の伸びをスタート展示でチェック!

目安はスタートタイミングの差 .05

下関の出走表に掲載されている各選手の平均スタートタイミングは過去1年間の値。スリット隊形をイメージするに十分なデータである。

表は、2~6コースの選手と、その1つ内側の選手とのスタートタイミングの差ごとの1着率をまとめたものだ。スタートタイミングの差が.05程度(.03~.07)だと、2~6コースでも勝つ可能性

がある。**スタートタイミングの差が.08以上なら、1着率は全レース集計と比べて3倍以上に跳ね上がる。**逆にスタートタイミングの差が.02以下の場合、1着は厳しい。

また、スタートタイミングの差はレース展開に大きく影響をもたらす。.05程度先行した場合、特に4~6コースのまくりの割合が増えるので要注意だ。

区分	全レース集計 (1着率)	1つ内側とのスタートタイミングの差		
		.02以下	.03~.07	.08以上
1コース	59.2	-	-	-
2コース	11.0	8.3	17.8	38.1
3コース	10.5	6.8	13.6	31.6
4コース	10.4	4.8	16.5	41.4
5コース	6.2	3.6	10.7	22.2
6コース	2.6	1.2	5.9	15.0

※集計期間:2023年1月~12月 単位は%

チャンスレースの探し方

下関公式サイトにはコース別選手成績というページがあり、各レース・各選手のコース別平均スタートタイミングや入着率を掲載している。スタート展示の並びを参考にコース別平均スタートタイミングを見て出走表の平均スタートタイミングと違って差があるレースは、高配当のチャンスレースかもしれない。逆に、インコースの選手のスタートタイミングが際立って早い場合は、インから厚く勝負に行くべきレースかもしれない。

出走表にある節間成績で、スタートタイミングのばらつきも見ておきたい。コース別平均が遅く、節間の**スタートタイミングが安定しない選手は波乱の火種**になるだろう。

平均スタートタイミングの差がわずかでもスタートの質が良ければ優位に立てるので、スタート勘、スリット後の伸びをスタート展示で確認しておきたい。ピット離れや進入の駆け引きも要チェックだ。



ここからコース別選手成績を確認できるぞ!!



1-23-234 からどれを選ぶか？

出現率トップ10は全て1アタマ。上位4点をまとめると1-2-3-234で、全2353レースの約4分の1を占める。

この中ではやはり**1-2-3が優秀と言わざるを得ないが、半分以上が3桁配当**。2,000円以上はわずかに1割にも満たないので、1-2-3は10倍つけば御の字ということを念頭に舟券作戦を組み立てたい。1-2-4も同様に3桁配当が多く、1-3-24はオッズ次第。

他の目も軒並み回収率が悪い。1-4-3は一見優秀に見えるが、2度のイン逃げ万舟によって数値が引き上げられているので、2,000円台はそこまで多くない。

意外なのは、**1-2-5より1-2-6の方が平均値・中央値ともに良い**こと。本番でコースが変わることを考慮して6号艇の3着も持っておきたい。

出目	出現回数	出現率 (%)	平均値 (円)	中央値 (円)	回収率 (%)
1-2-3	198	8.4	1,082	790	91.0
1-3-2	135	5.7	1,393	1,030	79.9
1-3-4	123	5.2	1,410	1,110	73.7
1-2-4	121	5.1	1,239	900	63.7
1-4-3	90	3.8	2,268	1,405	86.7
1-3-5	79	3.4	1,903	1,510	63.9
1-4-2	76	3.2	1,653	1,185	53.4
1-2-6	75	3.2	2,428	1,630	77.4
1-2-5	74	3.1	1,747	1,205	54.9
1-3-6	60	2.5	2,428	1,375	61.9

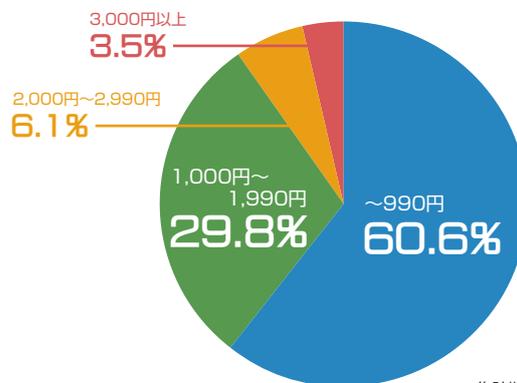
※集計期間：2023年1月～12月

おみくじ感覚で穴狙いもあり！？

穴目では6-1-全が圧倒的な成績。特に**6-1-5と6-1-3で特大万舟が連発**。15万円超が3発、8万舟も3発飛び出した。2023年の全2353レースで、6-1-全に含まれる目は計40回出現(出現率1.7%、万舟は19発)。払戻金合計は120万3,180円で、回収率は127.8%となった。シンプルでかつド高目を狙える6-1-全をおみくじ感覚で買うのも一興だ。

右下の表はその他の高回収目で、「十目十色」といった様相。セオリー的に買いやすいのは4号艇が攻めてまくり差した5-4-1、4号艇が攻めた際に切りがちな4-5-3あたり。万舟を量産した5-1-2や3-2-5、2度の10万舟をマークした5-2-6と5-6-4もオススメ。

1-2-3の払戻金分布図



※集計期間：2023年1月～12月

出目の期待値総まとめ

- ① 1-2-3で10倍なら御の字
- ② 1-2-5より1-2-6が美味しい

穴党必見! 6-1-全の実力

6-1-全...回収率127.8% 40回(万舟19発)
 6-1-5...回収率262.9% 9回(万舟8発)
 6-1-3...回収率132.0% 9回(万舟4発)

高回収率目	出現	万舟	回収率(%)	ド高目	量産
5-1-2	15	9	149.7	★★★	★★★★★
2-3-5	10	4	130.1	★★★★★	★★
3-2-1	18	7	126.5	★★★	★★★★★
5-4-1	8	6	122.8	★★★	★★★★
3-2-5	16	9	120.3	★	★★★★★
5-2-6	3	3	115.8	★★★★★	★★
3-4-6	13	6	100.8	★★	★★★★
5-6-4	2	2	99.9	★★★★★	★
3-6-1	14	8	99.4	★	★★★★★
4-5-3	10	7	98.1	★★	★★★★★

※集計期間：2023年1月～12月



【3897 白井英治】悲壮感なく艱難辛苦を乗り越える勇者



いわずと知れた第37回グランプリ(大村)の覇者である。

ホワイトシャークこと白井英治は2022年8月のボートレースメモリアル優勝戦(浜名湖)でのフライングのため、翌2023年のSGシード権をほとんど行使できず一般戦を中心に戦うこととなった。さらに、その後のフライング禍もありSG復帰戦になるはずだった蒲郡ボートレースダービーにもエントリーできず、11月の三国チャレンジカップで大舞台に戻ってきている。

そんな中、元旦の徳山優勝を皮切りに**2023年はV10を達成。さらに144勝し、最多勝利選手に輝いている。1着率は驚異の53.7%だった。**

いくら勝ってもグランプリに手が届かないもどかしさがあったろうが、「試練の年」「辛抱の一年」を悲壮感なく過ごしている。高い精神性の賜である。

そうした制限から解放された2024年。再び大舞台に立つことでファンの期待に応えてくれることだろう。



解説者 松野京吾が白井英治を語る

デビュー当時から普通の若者と違う雰囲気がありました。大きな夢をもつ異色の新人、それが白井英治選手の印象でした。そんなルーキーを今村豊さんがしっかりと支え、その教えを守ったことが大きかったと思います。整備や調

整に頼らず、ボートに乗ることや道具を大切にすることに徹したことがその一例です。ボートもモーターもいつもピカピカに磨いている姿を見て感じていました。

2022年のグランプリ優勝はまさにそのカタチ。2023年の最多勝(144勝)も実力の証明です。もっともっと高みを目指してほしいと思っています。

【3942 寺田祥】静かな佇まいの中に青い闘志が燃える男



寺田祥は挑戦者である。まず自分を飾ろうとしない。自分を大きく見せようとしていないから誰に対しても淡々としている。「寺田祥という人間です」という佇まいである。見せつけることをヨシとしないから優勝しても普通にしている。そして、群れることをヨシとしていない。といっても、一匹狼を標榜しているわけでもない。水のように色も味もなく存在している。

そして、1997年11月デビュー以来、およそ**25年余りでスタート事故はわずか12本(フライング9本、出遅れ3本)**。2003年2月以降は、20年間でフライングを2本

しか切っていない。記念第一線で戦うレーサーとしては稀有な存在だ。

そのレースはキレイで、差し技が鋭い。一方、あっけなく敗れる「負けっぷりの良さ」も特徴といえるだろう。ボートレーサーにとって切っても切れない「運」との付き合い方も独特で、**流れが悪いからとあがいたりしないが、いいときには決然と突き進む。**

どれもこれも、「アイデンティティ」などという作りモノへの挑戦のカタチであろう。



解説者 松野京吾が寺田祥を語る

よく平常心が大切と言いますが、それはとても難しいことです。選手は1年間で最大250走前後するわけですが、必ず負けがあります。全部勝つことはできない。2023年最多勝の白井英治選手のように5割を超える1着率を誇っても、

125回は悔しい思いをします。寺田祥選手はそういう時でも決して乱れません。淡々としていますし、たとえ劇的に勝利しても誇示することはありません。でも、闘志はすごい。内に秘めた闘魂です。そして、整備力や調整力に秀い出ているのも特徴。モーターのことをよく知っている勝負師です。

【4980 佐々木完太】山口支部ヤング世代のクリーンナップ！



佐々木完太は山口県の早鞆（はやとも）高校の出身。古豪として知られている野球部で白球を追っていた。「教えられたのは野球だけではなく」と語るように行動規範を徹底的に叩き込まれている。それは例えば、**人のためにする行動であり、スタンドプレーの回避。ゆえに、質実剛健な感じがする。**

しかし実際は違う。2022年5月の**大村モーターボート誕生祭**では「準優が一番緊張しましたが、あとはなんとかかなるだろう…」と平常心を取り戻し、グランプリレーサー井口佳典や吉川元浩を退け**G2**

初Vを飾っている。

さらに、昨年1年間のコース別1着率は、1コース78.9%、2コース24.3%、3コース39.3%、4コース28.2%、5コース14.2%、6コース9.3%。**どこからでも勝負できるレーサー**であることを数字が証明している。

末永祐輝、森野正弘に次ぐ3人目のトッplerキーとして注目されたのは昔話。「どんなに離れていても、前を走る選手を抜いてやろう」とするスタイルで、ますます成長していくに違いない。



解説者 松野京吾が佐々木完太を語る

120期の精鋭であり、今後必ずやボートレース界を背負って立つことになる存在です。この期の修了記念優勝はリーグ戦勝率7.27の馬野耀選手でしたが、これを大きく上回ってトップだったのがリーグ戦勝率7.77の佐々木完太

選手。周囲の注目を浴びる中、2017年5月にデビューしましたが、レースは「まくり屋」というよりも「差し屋」のイメージ。これは今も変わりません。なかなか勝てず苦しんだこともありますが、着実に成績を伸ばしてきた背景にあるのはレース力。判断力やターンのキレは成長の余地があり楽しみは尽きません。

【5163 清水愛海】限界を見極めようとする女子冒険者



山口支部期待のニューヒロイン・清水愛海は、養成所時代に**操縦の限界を見極めようとして45回も転覆**した。しかし、山口が生んだレジェンド・今村豊さんのようにチャレンジを続け、**127期リーグ戦の最高勝率(7.12)をマーク**し修了記念レースも優勝した。

その今村豊さんは、清水愛海をこう評している。「思い切りがいいですし、舟もよく向きます。握って旋回するテクニックもあります。彼女は女子レーサーとして...ということではなく、男子を含めた全選手の中でもトップクラスに入ることが

できる逸材だと確信しています」。

2023年の1月末から、外からでも勝てる選手を目指して内枠(1・2号艇)を封印。**3~6コースで腕を磨いていた**。しかし内枠を再解禁した2023年7月以降にアクシデントが続き、事故点を抱えることとなってしまふ。

その結果、2024年前期はB1級に身を置くことになったが、素質の高さは誰しもが認めている。デビュー以来続く事故率との戦いを乗り越え、ボートレース界の最前線に立つ日は決して遠くない。



解説者 松野京吾が清水愛海を語る

リーグ戦勝率7.12は127期トップ。さらに修了記念競走も優勝し鳴り物入りでプロデビューした清水愛海選手でしたが、これはホンモノだと感じていました。「スピード」「ハンドルのキレ」「巧みなレバー操作」「判断のよさ」「思

い切り」「スタート力」どれを取っても新人離れしています。フライング禍のため2024年前期はB1となりましたが、実力はA1。優位な位置からレースできる技量をもつため、波に乗ればコース不問で連戦連勝を飾ることも...。必ずや記念戦線の主役となると確信しています。清水愛海時代の到来を楽しみにしています。

海響 ドリーム ナイン



下回のレース情報は
公式サイトへ!